

いっせーのせ

VOL.
02

高齢の方にSNSを使っていただき世代間の防災交流を！

発行 長坂ふれあいのまちづくり協議会・神戸学院大学ボランティア活動支援室

長坂ふれあいのまちづくり協議会と神戸学院大学生がコラボして作成しました防災情報誌の第2弾です。今号の特集は「非常食」です。

東北・熊本被災地を応援！ 物産展を開催しました！！

神戸学院大学ボランティア活動支援室学生スタッフ災害班は、10月31日～11月3日の大学祭(ポートアイランド・有瀬の両キャンパス)で、被災地応援物産展を出店しました。

大震災で被災された企業への応援の思いで、東北から「かもめの玉子(さいとう製菓)」「笹かまぼこ(佐々直)」「ダイアモンドリング(お菓子のみよし)」、熊本から「からし蓮根チップス(森からし蓮根)」「阿蘇の恋唄(菓匠 久幸堂)」を販売いたしました。コロナ禍以前は、熊本に何度も足を運び、お店を取材しました。

大学祭の来場客、大学の学生・教職員にご協力いただき、ありがとうございましたことに完売しました。大学祭の後、11月6日にもノエビアスタジアム神戸で行われた「ヴィッセル神戸 vs 徳島ヴォルティス戦」の会場でも出店し、完売しました。



熊本 阿蘇神社門前商店街

<被災された企業の声>

- ▶ 新型コロナウイルス感染症により、従業員やお客様が激減し、大きな影響を受けました。また、コロナ対策として、衛生管理の徹底を心がけています。
- ▶ 待ちに待った2020年、熊本地震によって寸断された国道57号線の開通が、阿蘇の観光産業にとって希望の光でした。そんな時に流行した新型コロナによりさらに厳しい状況となりました。この苦境を乗り越えるために、新商品の開発や販路開拓に取り組んでいます。

被災地応援になります。皆様もぜひご購入ください。



かもめの玉子



笹かまぼこ



ダイアモンドリング



からし蓮根チップス



阿蘇の恋唄



ホンネで防災と食を考える

迹田 利子

長坂ふれあいの
まちづくり協議会
役員



《長坂の下宿生》

下津江 悠太（左）
経済学部3年生

上岡 結菜（中）
栄養学部2年生

藤原 崇（右）
経済学部2年生

迹田 阪神・淡路大震災では長坂は震度5で、ライフラインは止まりました。でも、食料に困った記憶はないですね。長坂は農家が多く、野菜の生産地でもあるので、食料に対する危機意識は低いように思います。

上岡 でも、電気が止まると生ものはダメになりますよね。

迹田 そうですね。そのためにも缶詰や乾物など、長期保存できるものを置いておかないといけない。それに、水のストックがとても大切ですよ。

藤原 水がないと命にかかわりますが、当時はどうされていたのですか？

迹田 発災から2、3日で給水車がきました。マンションだとエレベーターが動かないで、運ぶのは大変でした。

下津江 2年前に長坂地域福祉センターで防災学習会を開催した際に、昼食として地域のみなさんに非常食を提供しました。

迹田 いまは非常食が豊富で、阪神・淡路大震災の時と比べたら便利になりました。水だけでごはんが炊けるアルファ米はとてもおいしかった。

藤原 福祉センターは避難所に指定されているとお聞きしました。備蓄はあるのですか？

迹田 福祉センターは「福祉避難所」（※1）に指定されているので、非常時には役所から食料が届くことになっています。

日常と非常時をつなげる発想

下津江 非常食の新しい考え方「ローリングストック法（※2）」というものがありますね。日常の食事と非常時の食事をつなげて取り組むというやり方です。

迹田 あなたは実践できているの？

下津江 非常食どころか、日頃の食生活にまったくこだわりがありません。一日一食です。それもカップラーメンが多いかな。

全員 え～（絶句）

迹田 お腹すかないの？

下津江 買いに行ったり、食べに行ったり、めんどうくさいから我慢します。

上岡 わたしはそこまで極端ではないですが、朝食は抜くことが多いです。

迹田 自炊はしないの？

上岡 昼は大学で食べて、夜はコンビニ弁当と自炊が半々くらい。授業で帰宅が遅くなるので。非常食の備蓄なんてまったく考えていなかったです。

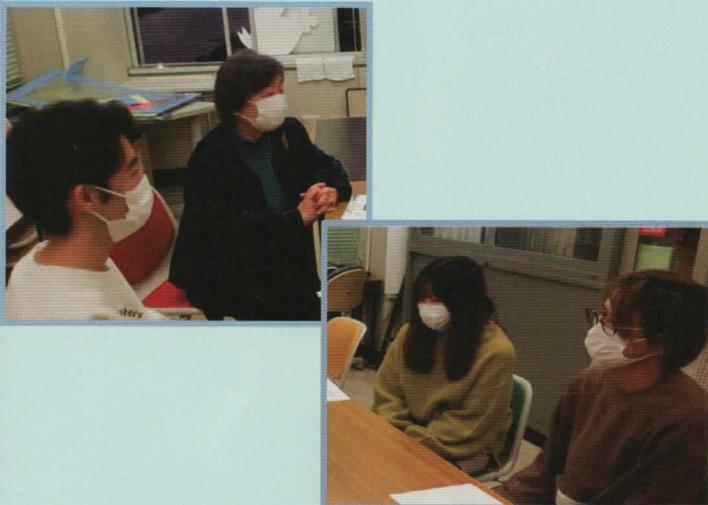
藤原 僕はほとんど買い食いか、外食ですね。お金がない時はもやしをおかずにご飯を食べています。実家が近いので、お米とか水は持ってきてくれます。水は2リットルを10本くらいは置いています。

下津江 下宿の冷蔵庫は小さくて、まとめ買いがしにくいです。

迹田 三日分くらいならそれほどスペースも取らないし、下宿生でもできると思いますよ。食べて無くなれば買い足しをしていけばいい。

上岡 非常食の備蓄を実践したいですが、日頃の食生活の改善も頑張らないといけませんね。

迹田 「子どもの居場所づくり」のお手伝いをしてはどうですか。放課後の支援です。ご飯と一緒に食べたらいい。



いざと言う時に、助けえるのか

迹田 阪神・淡路大震災のときはプロパンの世帯がお風呂を沸かしてあげて、近隣のひとに提供していました。いまは都市ガス、オール電化の世帯が増えて、便利ですが震災には弱いかも知れませんね。

下津江 僕の実家は広島で、田舎なので地域のつながりは強いです。でも下宿はマンションなのでお付き合いはない。学生も地域の一員ではあるのですが、地域の方に知り合いもいないので、困ったときに助けを求める意識は低いと思います。

上岡 わたしも挨拶をする程度ですね。隣に誰が住まれているのかまったく知りません。

迹田 わたしも地元の住民ではないですよ。30年前にここに移り住んできたんです。



地域の方と非常食を試食(2019年12月)

藤原 そうなんですか。地域リーダーとしてご活躍されているので地元の方だと思っていました。

迹田 民生委員などをして地域活動を続けてきましたが、代々ここにお住まいの人からしたら「新住民」です。住居はマンションです。マンションは匿名性が高い傾向にあって誰が住んでいるのか分からず。地域の情報が行き渡りにくいですね。

下津江 僕たち学生からしたら「地域住民」とひとくくりにしていたけど、いろんな方が暮らしておられるんですね。

迹田 あなたたちも災害が起こったら、助け合いの輪に加わらないといけないでしょ。学生が地域活動に参加することで、顔の見える関係をいかに作っていくかですね。

上岡 その意味でも今回の活動で地域の方と知り合いになったことはありがたいですね。学生が頑張ることで、新しい関係づくりへのきっかけになればと願います。

※1 福祉避難所

福祉避難所は、災害時の避難所での生活において、何らかの特別な配慮を要する方々のために市が開設する避難所。

一方、緊急避難所は一般の住民が避難する場所で、長坂地区では長坂小・中学校、伊川谷高校が指定されている。

※2 ローリングストック法

日常的に非常食を食べて、食べたら買い足すという行為を繰り返し、常に家庭に新しい非常食を備蓄する方法。

今号の特集は、長坂に下宿する学生と地域住民との対談です。「阪神・淡路大震災」の記憶から始まった対談はどこに向かうのか。非常時の「食」について話し合っていただきました。

防災豆知識 アルファ米作ってみた



非常食と言っても豊富で、何をどれだけ備蓄すればよいか迷います。参考になればと学生の体験をご紹介します。

①ネットで購入



②開封 全部入ってる



③お米に、
セットの具材投入



④湯または水を注ぐ



⑤まぜまぜ



⑥閉じて蒸らす

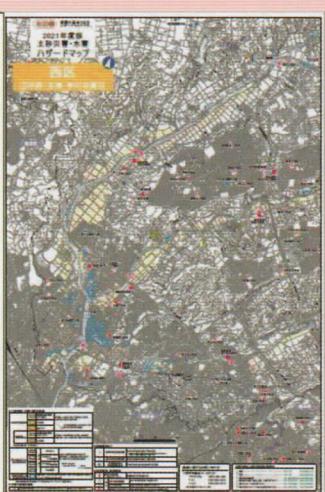


⑦まぜまぜ



⑧はい、召し上がり

湯15分・水60~150分が目安



ご存じですか？
西区が発行している『くらしの防災ガイド』

本誌では、長坂地区限定ハザードマップの最新版を作成しています。

ふれまち役員の方のご指導のもとで、学生が地域を街歩きして、危険な場所や避難経路をチェックしています。第4号で成果を発表いたします。
お楽しみに！

地域と大学をつなぐ防災情報誌 VOL. 2

発行 2021年12月15日

発行者 長坂ふれあいのまちづくり協議会

神戸学院大学ボランティア活動支援室

連絡先 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

神戸学院大学 ボランティア活動支援室

T E L 078-974-1551(大学代表)

E-mail kgu-vc@j.kobegakuin.ac.jp